

(6) 東海



東海地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はサービス支出を中心に弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

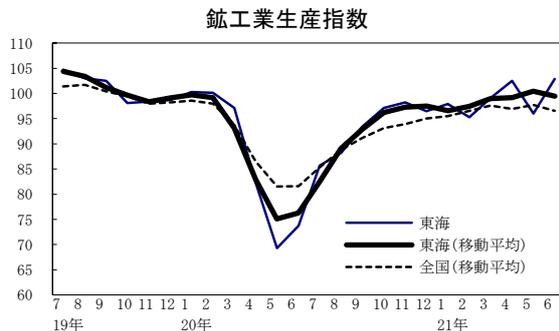
前回からの主要変更点

	前回 (令和3年6月)	今回 (令和3年8月)	
鉱工業生産	持ち直しの動きに足踏みがみられる	持ち直している	↑
個人消費	このところサービス支出を中心に弱い動きとなっている	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	→
雇用情勢	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している	↑

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直している。

4－6月期の鉱工業生産は、「汎、生産、業務用機械」は金属工作機械等が増加したこと、「電子デバ、電気・情報通信」は集積回路等が増加したこと等により、前期比3.1%増となった。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。東海の最新月は速報値。
2. 全国及び東海の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。
3. 東海は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1-3 月期	4-6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	40.1	▲4.4	2.0	3.0	▲11.8	13.3
電子デバ、電気・情報通信	13.3	3.0	6.6	6.5	▲1.7	2.3
石油・石炭、化学、プラスチック	13.0	1.7	1.7	1.6	▲2.5	2.3
汎・生産・業務用機械	11.2	7.2	9.7	9.2	▲3.2	5.8
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	6.4	4.1	0.0	▲0.4	▲4.8	7.4
鉱工業	100.0	0.2	3.1	3.4	▲6.3	7.2

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 4－6月期、6月は速報値。
3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

個人消費はサービス支出を中心に弱い動きとなっている。

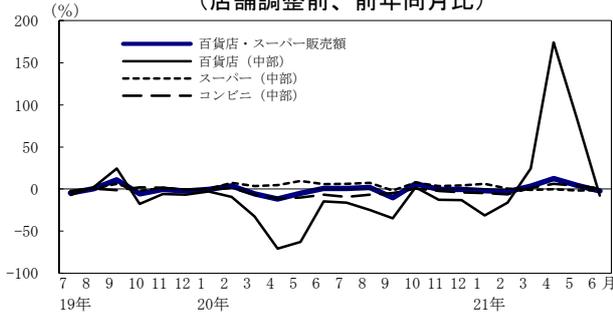
(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4-6月期は前期比1.8%増となった。月別にみると、4月は前月比0.6%増、5月は同1.6%減、6月は同1.3%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4-6月期は前年同期比4.5%増 (前々年同期比1.0%減) となった。月別にみると、4月は前年同月比12.4%増、5月は同4.6%増、6月は同2.2%減となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2021年4-6月	2021年4月	5月	6月
RDEI (消費)*1	1.8	0.6	▲1.6	1.3
百貨店・スーパー*2	4.5	12.4	4.6	▲2.2
百貨店*3	48.0	174.1	84.4	▲7.7
スーパー*3	▲1.2	▲0.1	▲1.9	▲1.5
コンビニ*3	3.7	6.2	4.0	1.1
乗用車*4	27.2	37.9	50.7	5.0
(季節調整値)*4	▲5.5	2.1	▲9.8	▲5.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

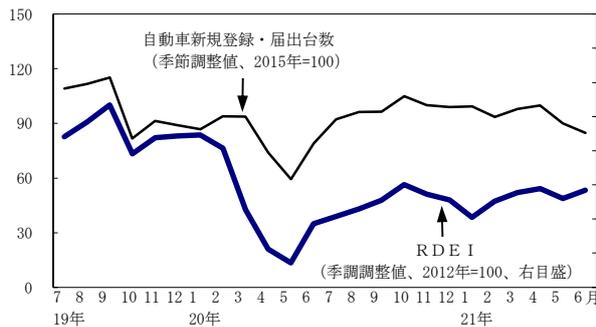
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

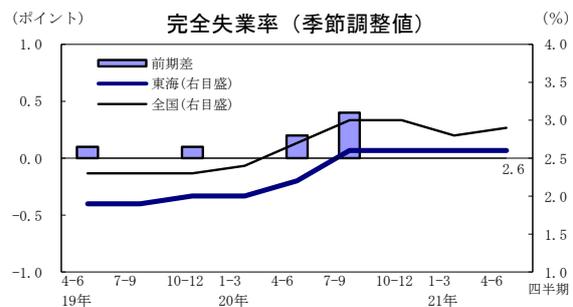
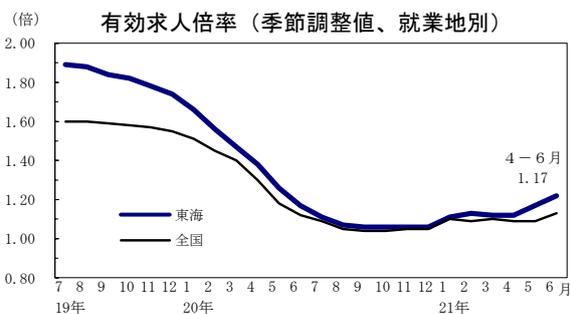
RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和3年7月調査）景気判断理由の概要

6. 東海

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	□
○			・新型コロナウイルスの感染が落ち着いている。夏休みに入ったことなどで宿泊客は増加している。ただし、単価を大きく下げた販売のため、売上は厳しい。宴会は、会議が若干ある（都市型ホテル）。
▲			・夏物衣料の購入点数が前年と比べると少ない。夏物の必需品の販売は固いが、カジュアル衣料は売行きが鈍い。必要な物以外には財布のひもが固くなっている（衣料品専門店）。
企業 動向 関連		□	・受注は比較的好調だが、人手不足や部品の納期遅れなどでさばき切れない状況である（電気機械器具製造業）。
		○	・例年同様に雨の日が多いが、ワクチン接種が進み、徐々に外出する人が増加していると思われる。売上は前年を上回り、回復傾向になってきている（不動産業）。
		▲	・鉄材関連の原材料の価格高騰は止まらず、収益の悪化が懸念される（金属製品製造業）。
雇用 関連		○	・企業の中途採用発注数は伸長し続けている。業界や企業ごとに好不況の差はあるものの、採用決定数も前々年と同水準に上がりつつある（民間職業紹介機関）。
		□	・求人数は3か月前と比べ全体では増加傾向にあり、前年同月比でも増加しているが、新型コロナウイルス関連需要を差し引くと横ばいである（人材派遣会社）。
その他の特徴 コメント			○：売上の前年比は106%と好調である。東京オリンピックが始まったことによる特需、梅雨明けが早まったこと、新型コロナウイルスの影響が軽減されたことと、3か月前と比べプラス材料が多くあり、若干右肩上がりの状況である（コンビニ）。 ○：自動車産業等の関連企業では、受注、生産などが比較的良好な数量にあることと、東京オリンピックの関係で上昇ムードのため、景気は若干良くなっていると判断した（金融業）。
先行き		分野	判断
	家計 動向 関連	□	・ワクチン接種が大分行き渡るとは思われるが、景気の回復にはまだ時間が掛かりそうである（商店街）。
		○	・自粛は当面続くが、ワクチン接種が飛躍的に進むことにより、通常の営業に近い形になることを期待している（高級レストラン）。
	企業 動向 関連	□	・コロナ禍で一度通販を利用した客は、引き続き利用する。安定して増加している（輸送業）。
		▲	・コロナ禍の自粛の反動で、引き合いや受注が増えているが、今度は半導体部品の不足で自動車の生産にブレーキが掛かっており、設備投資の見通しは明るくない（一般機械器具製造業）。
	雇用 関連	○	・産業別新規求人数を前年同月と比較すると、増減にばらつきはあるものの全体では増加しており、特に基幹産業である製造業での増加傾向が続いている。コロナ禍での感染拡大の懸念から先行き不透明感は強いものの、徐々にアフターコロナに向けての期待と準備の動きが出始めた感がある。ただし、引き続き変異株の感染拡大に注視していく必要がある（職業安定所）。
その他の特徴 コメント		◎：製造業は全般的に増産傾向にある。材料不足が一番の問題点になりつつあり、車でさえもIC、鉄の不足で生産調整している。これが解消してくれば更に増産も可能な状況である。工作機械を新規で頼んでいる同業者が多い（輸送用機械器具製造業）。 ▲：新型コロナウイルス第5波の変異株による感染の急拡大で、今まで以上の打撃を受ける予感がする。ワクチン接種の進み具合にもよるが、旅行業界の復活はまだ半年以上は無理だと感じる（旅行代理店）。	

(D I) 現状・先行き判断D I（東海）の推移（季節調整値）

